

東京農大と鮫川村のカレッジ講座

学生に技術“伝授” 地域づくり一緒に考える

炭焼きは里山保全に一役

東京農大学生と炭窯を作る関係者



炭窯を成形する「べら棒」
を作る東京農大学生

東京農大と鮫川村の
カレッジ講座「鮫川村
・里山景観保全活動」
は四月二十五、二十六
伝承。里山の再生、エ
ネルギーの地産地消、
自然と共生した持続可
能な地域づくりなどを
考えた。

美しい里山に囲ま
れ、県内一の農家率64
・7%の鮫川村。農林
業の兼業化や高齢化に
伴い、管理放棄された
田畑や山林の景観保全
が課題となっている。
里山の景観保全を目的
に平成十二年四月に始
まった同講座は五十七
回目を迎えた。

講師は地元の小林秋
男、小林輝男、根本正
美、藤田一幸さん。二
十五年から三十年の周
期で伐採するのが山林
の理想「一切って使う
ことで再生、保護につ
ながる」などと昔から
伝わる林業の心得、炭
焼きが環境保全に果た
す役割を学生に教え
た。

今回は学生や首都圏
の一般市民、村民ら約
三十人が参加。村営施
設ほっとはうす・さめ
がわ近くの山林で、縦
二・一メートル、横一・七
メートルの小型の炭窯を作り、
コナラやクヌギの炭焼
きをした。

夕食では里山で採っ
た山菜を味わい、豊か
な自然をあらためて実
感した。